

平成27年度定期総会、第1回会員相互研修会報告

平成27年7月25日（土）に東北みずの会定期総会、第1回会員相互研修会を開催しましたので報告いたします。

1. 総会

42名の会員の方が出席され、以下の議題が了承されました。（詳細は添付の「平成27年度定期総会資料」をご覧ください。）

（1）平成26年度事業報告

平成26年10月25日 設立会 参加37名

平成27年1月29日 講演研修会 参加19名

（2）平成27年度活動方針

① 活動方針 添付「平成27年度定期総会資料」参照

② おもな行事

平成27年4月15日 設立記念講演会 参加154名 （終了）

平成27年6月9日 水道水源七ヶ宿クリーン作戦 参加145名

うち、東北みずの会16名 （終了）

平成27年7月25日 定期総会・第1回会員相互研修会

参加42名 （終了）

平成27年10月2、3日 視察研修会・施設見学会

平成27年11月13日 記念講演会

平成28年1月16日 第2回会員相互研修会



2. 会員相互研修会

相互研修会は会場の定員30名を12名も超える満席のなかで開催されました。記念すべき第1回の話題提供は成田匡邦氏、西村修氏、大嶋雄生氏（発表順）にお願いしました。

「震災復興の現状と中小事業体の抱える課題」 成田匡邦氏

成田匡邦さんからは気仙沼市の水道事業が置かれている状況について、職員数に焦点を当てた話題提供がありました。新水道ビジョンの実現やアセットマネジメント、水安全計画、BCPなどを少ない職員数で実施することの困難さを説明いただいたうえで、下水道事業団にならった地方共同法人を設立しそこに職員と技術を集約させて中小事業体の事業を円滑に進めるという画期的な提案がありました。

意見交換では安藤健一さん、小野寺常人さん、秋葉道宏さん、菊池明敏さん、大友伸一さん、千葉添人さん、有村源介さんから、復興事業の中での簡易水道統合の難しさに対する質問、水道職員が12名を切ると民間委託さえできなくなるという情報提供、その他アセットマネジメントの実施結果についての質問、民間活用に関する情報提供、職員数確保の方法についての提案、下水道事業団に関する情報提供、人事を水道側から市に提案できないかといった意見がありました。

「水道システムにおける生物障害の問題と対策」 西村修氏

西村修さんからは水道水の濁度を上昇させるピコ植物プランクトンの除去についての話題提供がありました。除去には二段凝集法が効果的だと分かっていること、どうして通常の凝集沈殿ろ過処理では十分除去できないのに二段凝集処理だと除去できるかを説明していました。二段凝集処理におけるろ過直前の凝集剤の添加はピコ植物プランクトンの微小フロックの吸着能力を上げる効果があるため、ろ過池での漏出を防ぐのに効果的だということでした。

この話題に関し石橋良信会長、相澤英彦さん、有村源介さんから中小の事業体が活用しやすいように経済面でも研究してほしいという意見、実際に浄水場を運転する中での植物プランクトンに起因する周期的な濁度変動があったという報告、従来生物とピコ植物プランクトンの関連性に関する質問がありました。

3. 「公営企業会計と経営戦略の策定」 大嶋雄生氏

大嶋雄生さんからは、総務省による地方公営企業の改革としての公営企業会計の活用と経営戦略策定に関する話題提供がありました。そして地方公営企業会計を活用して簡易水道や下水道事業などが経営戦略を策定する場合には、サービスを維持する投資試算と財政の状態に配慮した財源試算を均衡させて収支計画を立てることがポイントだという説明をいただきました。経営戦略の策定とその後の定期的な見直しでは料金改定の必要性について必ず検討することが望ましい、しかし料金改定に向けては周到な準備が不可欠ということでした。

その後、岡崎弘事務局長、菊池明敏さん、南部昌秀副会長、砂金崇さん、秋葉道宏さんか

ら職員数の少ない簡易水道事業が地方公営企業会計に移行してそれを維持できるのか、そこまでする効果はあるのかという問題提起がなされた一方で、中小事業体が自分の立ち位置を知ることが改革の重要な一歩となると言ったたいへん活発な意見交換がありました。

話題を提供していただいた3氏およびご出席のみなさん、活発な質疑応答、意見交換、情報提供を本当にありがとうございました。事務局として記録に勤めましたが理解の不足から発言なされた方々の意図と異なる記述、記録できなかった部分も多々ありますことをお許しください。

東北みずの会事務局

写真集



